

# 令和7年度(2025年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	弘学館高等学校	児童数	260人
-----	---------	-----	------

## I.取組前の宣言内容

宣言	目標	読書会で本を読み終わってから参加する人の人数を増やす
	取組期間	令和7年(2025年)6月23日～令和7年(2025年)11月30日

※令和7年(2025年)4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和7年(2025年)11月30日までの取組みとする。

## II.取組後の評価

評価	取組人数	実施日数	読書冊数	連携した団体数
	263人	161日	1冊	0団体
取組内容(概要)	年に2回行われる読書会の、課題本の読了率を上げる。 [高校2年生]自分たちで本を選んだ。 [高校1年生]課題本を国語の授業で扱ってもらった。			
工夫したこと	課題本の読了率を上げるため、朝にある10分間の読書時間を利用するよう呼び掛けた			
取り組んだ感想	●生徒が本を読む時間がある時期に読書会を開くことが重要だと痛感した。 ●全体的な傾向として、日頃から本を読む人が課題本を読み、本に関心を持たない生徒は課題本を最後まで読みきれなかった。			
今後の取組予定 (令和7年(2025年)12月 ～令和8年(2026年)3月)	●これまでの読書会に加えて、本が好きな有志のみを集めた読書会を開催するのも良いかもしれない。			

※本報告書は簡潔に記述し、A4サイズ2頁以内とし、取組内容が分かる資料(写真、イラスト、取組前後の比較データ等)をA4サイズ3頁以内にまとめて、添付してください。

報告書・資料の様式はWordを基本とし、他形式も可としますが、一度にメール添付できる容量は5MBまでですので、これを超える場合は、佐賀県まなび課までご連絡ください。

※県のホームページに掲載しますので、写真等は、「個人が特定できないもの」または「本人の了承を得ているもの」をお願いします。

## III.応募する【提出期限:令和7年(2025年)12月12日(金)】

実践報告書は、データ(Word版)で佐賀県まなび課まで電子メールにより送信してください。

## 1、取組内容

〔高校2年生〕

活動：自分たちで本を選んだ。

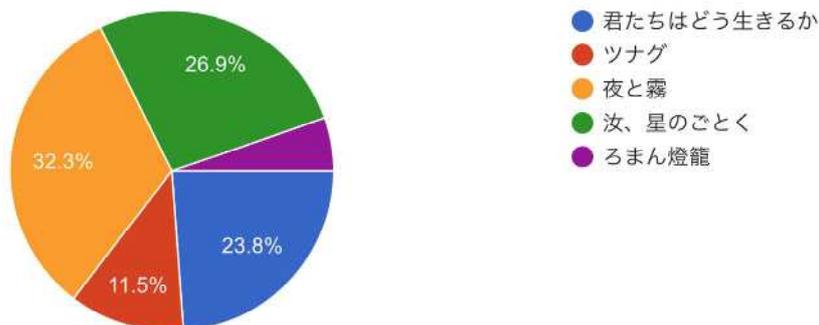
意図：「自分たちで課題本を選んだ」、という意識を持たせることで、読了率の増加を図る。

①図書委員が読書会課題本の候補を選んだ。

②その候補を5作品まで絞り、高校2年生にアンケートをとった。

〈候補作品〉

- 『君たちはどう生きるか』 吉野源三郎 (教養)
- 『ツナグ』 辻村深月 (感動ファンタジー)
- 『夜と霧』 V.E.フランクフル (ノンフィクション)
- 『汝、星のごとく』 凧良ゆう (恋愛青春)
- 『ろまん燈籠』 太宰治 (短編集)



その結果、最も多かった『夜と霧』が課題本に選ばれた。

〔高校1年生〕

活動：読書会までに、国語の授業で課題本『海と毒薬』を扱ってもらった。(課題本は例年通り担任の先生が選んだ。)

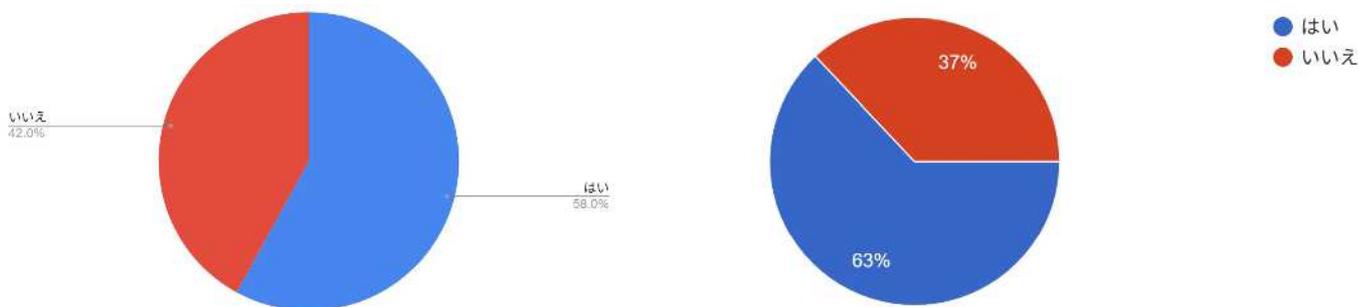
意図：授業中に本を取り上げることで、自分から勧んで課題本を読もうと思わない人も、課題本に関われるようにする。

## 2、取組前後のアンケート結果の考察

### (1) 読了率の変化

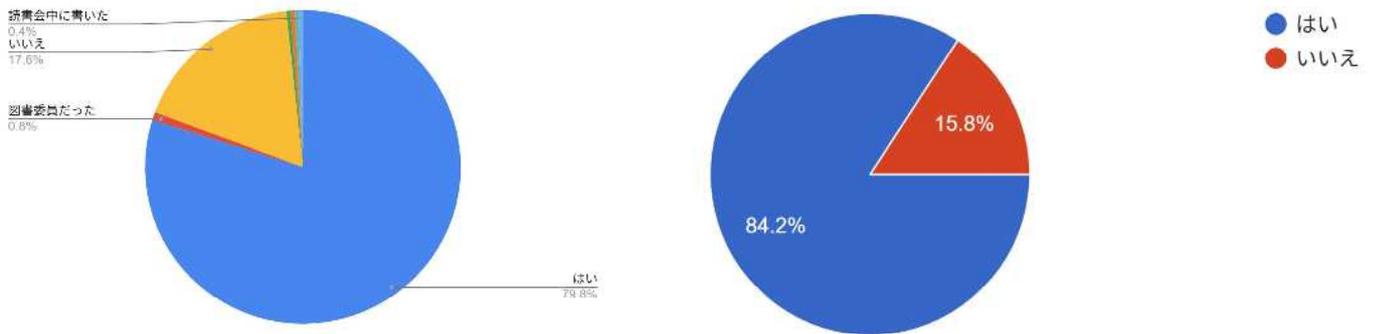
第一回読書会における高校生の課題本読了率

第二回読書会における高校生の課題本読了率



上記のグラフから、読書会までに本を読み終えることができた人が58%から63%に増加した。〈討議の柱を全て記入できましたか〉

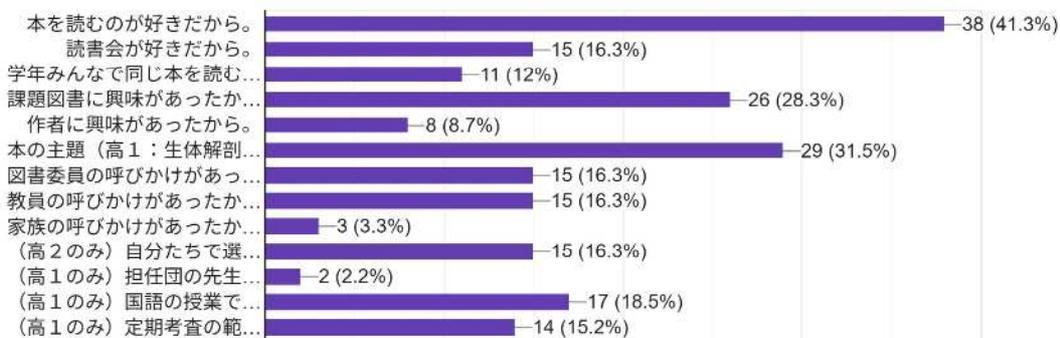
## (2) 討議の柱記入率の変化



上のグラフから、読書会前に討議の柱をすべて記入した人は79.8%から84.2%と増えた。

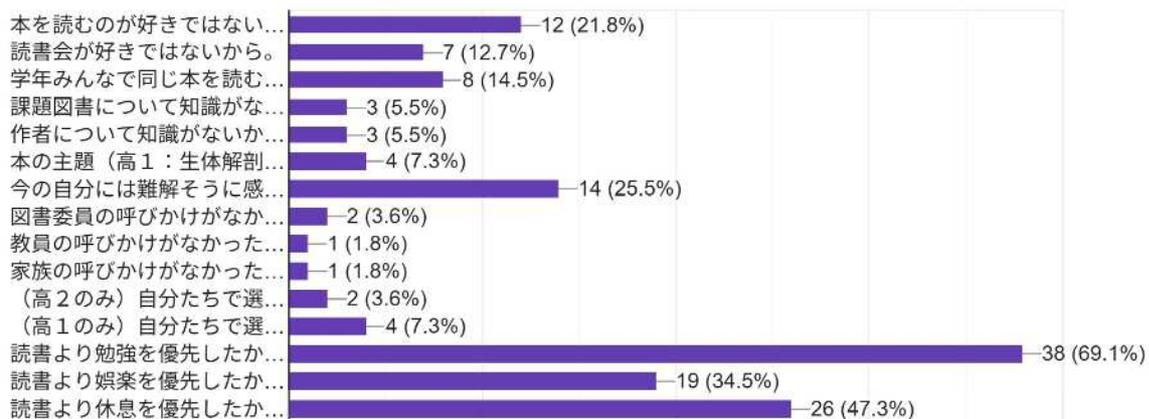
## (3) 読了率の変化の要因

〈本を読み終えた理由のアンケート結果〉



上のグラフから、「本を読むのが好きだから」が41.3%で最も多く、次に「課題図書に興味があったから」が28.3%となった。学年別に見ると、高1は本の「主題に興味を持ったから」が31.5%と高かった。一方、高2は「自分たちで選んだから」と回答した人は16.3%と、それほど多くなかった。

〈本を読み終えなかった理由のアンケート結果〉



上のグラフから、「読書より勉強を優先したから」が69.1%で最も多く、次点の「読書より休憩を優先したから」47.3%に大きな差をつけていた。第二回読書会は定期考査の一週間前だった。

また、双方の読書会にて下記の意見がでた

<ul style="list-style-type: none"><li>▪良かった点</li><li>「スムーズに終わった」</li><li>「いろんな人の意見が聞けた」</li><li>「班の人と一緒に意見を出し合ってまとめられた」</li><li>「みんなで話し合えた」「意見を知れた」</li><li>「濃い内容のディベートができた」</li></ul>	<p>改善点</p> <ul style="list-style-type: none"><li>「少しうるさかった」「少し騒がしい」</li><li>「話し合う時間を増やす」</li><li>「みんなが発言できるようにしてほしい」</li><li>「討議の柱を書いていない／本を読んでいない人が多かった」</li></ul>
--	---

▪その他(図書室への意見)

「デジタルでも貸し出しして欲しい」

→この意見を受けて学校配布のタブレット端末を用いて青空文庫(<https://www.aozora.gr.jp>)に入れるようにした

### 5、総括と今後の展望

- 生徒が本を読む時間がある時期に読書会を開くことが重要だと痛感した。
- 全体的な傾向として、日頃から本を読む人が課題本を読み、本に関心を持たない生徒は課題本を最後まで読みきれなかった。
- これまでの読書会に加えて、本が好きな有志のみを集めた読書会を開催するのも良いかもしれない。

以下は第二回読書会の様子

